

[プレスリリース]

公益財団法人 日本セーリング連盟

男女混合ディンギー種目、暫定 3 位に後退
男女混合マルチハル種目は 6 レースを終え暫定 18 位



今日 14 位と 12 位になり悔しそうな表情を見せる岡田／吉岡組

©JSAF/JUNICHI HIRAI（写真転用禁止）

レース 8 日目。今日からセーリング競技の新種目、男女カイト種目 Formula Kite 級のレースが始まりました。これでオリンピック種目全 10 種目がマルセイユの海に登場したことになります。

男女混合ディンギー種目 470 級は苦戦をしいられた 1 日でした。最初のレースは 14 位、続くレースは 12 位と順位を落とし、前日までの首位から暫定 3 位に後退しています。

暫定 1 位はオーストリアの Lara Vadrnau/Lukas Maehr 組、暫定 2 位はスペインの Jordi Xammar Hernandez/Nora Brugman Cabot 組です。1 位のオーストリアとは 6 ポイント、2 位のスペインとは 1 ポイント差です。また暫定 4 位のスウェーデン、Anton Dahiberg/Lovisa Karlsson 組とも 1 ポイント差と、上位 4 艇は僅差の接近戦となっています。明日以降も上位 4 艇による、シビア駆け引きが続きそうです。



Nacra17 級の飯東／西田カピーリア組 ©JSAF/JUNICHI HIRAI（写真転用禁止）

男女混合マルチハル種目 Nacra17 級は、今日も厳しい戦いを強いられました。フョイリング艇にとって波のあるコンディションは操船が難しく、トップ集団とは力の差が歴然で、なかなか上位に追いつくことができません。飯東潮吹／西田カピーリア桜良組は、明日以降、少しでも順位を上げるべく気持ちを新たにしています。

明日は今日より風が落ちる予報で、470 級は 2 レース、Nacra17 級は 3 レースが行われる予定です。

成績 & スケジュール（ワールドセーリング五輪公式大会サイト）

<https://paris2024.sailing.org/racing/results-centre/>

（審問により成績が変更される場合があります。またレーススケジュールはコンディションによって変更されますので、必ず最新情報をご確認ください）

[選手コメント]

470 級スキッパー・岡田奎樹選手

「今日のレース、何が具体的に悪かったのか、どこの選択が悪かったのか、まだちょっと整理できてないですが、(吉岡選手との)コミュニケーションが(普段より)少なかったですね。普段は基本的に僕がずっとしゃべっているんですが、しゃべりが少ないということは、自分の中で整理ができていなかったのかもしれませんが。自分の中では整理していたつもりなんですけど……、分からなくなっちゃって。自分が選択したコースとは違う風が入った時に、どこの判断が違っていて、どこは合っているのかが整理できていなくて、それを抽出するのに時間がかかってしまいました。未だに何が悪かったのか分からないんですけど。明日に向けてやらなければいけないのは、切り替えること。気持ち的にすごく引きずり下ろされたという感覚が強いので、そういう考え方のケアと、明日からどういう戦いをしていくか、というのをもうちょっと踏み込んで決めておくべきですね。

軽風になったらけっこう自信があるので、一昨日までみたいにレースプランをきっちり固めずに、その場の対応でやりきろうと。そっちの方がブローに対しては敏感なのでいいのかなと思ったんですけど、レースしている間、もしかしたら皆に寄せるとか、そういうところが自然と頭に入ってきちゃったのかもしれないですね。そういうつもりはなかったと思うのですが、そのあたりが本当にそうだったかも分からないので、もう一回考え直して、コースのトラッキングを見て、この時こういうことを考えていたんだけど、実際はこういう見え方だったのかというのはもう少しフラットに考えて、明日は軽風でしようから、明日の戦い方は先に決めて、しっかりやりきる方向性でやらないといけません。スピード自体は問題ないと思いますが、コースの組み立てがちょっと違ったのかなあと思います」。

470 級クルー・吉岡美帆選手

「(現在暫定トップの)オーストリアのララとは、女子 470 級でリオまで戦った経験があります。どんな選手かという、負けん気が強いです。負けず嫌いで、けっこう絡んでいくタイプだと思います。

今日はいねりだけが残っていたので、バランスを取るのがけっこう難しくて、自分もバランスをとるので一杯一杯になっちゃって(周りが)見えてなかったです。そこは反省すべきところですよ」

Nacra17 級スキッパー・飯東潮吹選手

「フォイリングコンディションで波があると、技術的な差が顕著に出てしまいます。波がある海面のフォイリングが一番難しいです。いかに波にもってかれずに、スピードをキープするか。波でのアップダウンも、風のアップダウンもありますし、トリムもメインシート、トラベラ

一、それからダガーボードのコントロールもしなければならず、前後移動もやらないといけな
いので、なかなかフラット海面とは違います。今日は苦しいレースでしたね。苦しいレースで
したが、全力は出しています。

順位もある程度決まってきたので、しっかり攻めたレースをしてもうちょっと前に食い込
めるようなオリンピックにしたいなと思います」

Nacra17 級クルー・西田カपीリア桜良選手

「今日はタックがちょっと多かったです。Nacra17 級の場合、艇の性質もあるので
トップを走る選手ほどタックが少ないです。今日はシフティなコンディションと
いうこともありましたが、それでも多かったと思います。明日からの風はたぶん得
意風域なので、自分たちの MAX 良い走りをしたら前に行けると思うので、自分たちの力を
信じてやっていきます。明日への活力のために、差し入れの鳩サブレを食べたいです、
それとメロンですね。選手村のメロンがとても美味しくて、潮っぽい体がメロンを欲している
んです。夜と朝に食べて元気をつけます」

本件に関するお問い合わせ先

日本セーリング連盟 広報委員会 kohou@jsaf.or.jp

現地（西朝子）sailingnishi@gmail.com

+81-90-1042-9262（なるべく WhatsApp 等のアプリからおかけください）

写真に関するお問い合わせは上記までご連絡ください

JSAF 公式 [ウェブサイト](#) [Facebook](#) [X\(旧 Twitter\)](#) [Instagram](#)

[特設サイト](#) [代表 Instagram](#)